

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリース ノート

Release 6.7.0



Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（**redundancy**）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

原典:	<i>Sun Storage Common Array Manager Software 6.7.0 Release Notes</i> Part No: 821-0964-10
-----	--



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート	1
ソフトウェアについて	2
ソフトウェアの入手方法	2
ソフトウェアの内容	3
上級機能 (オプション) のライセンス	3
このリリースの新機能	4
CLI を使用した最大ボリュームサイズを選択	4
CLI の更新された os-type 値	5
仮想ディスク上のボリュームの削除の機能拡張	6
マニュアル	6
システム要件	7
サポートされるアレイ	7
サポートされる Web ブラウザ	8
ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス	8
サポートされる言語	9
パッチ	9
サポートされるプラットフォーム	10
ファームウェア	10
2500 アレイ	11

6540、6140、および FLX380 アレイ	11
J4000 アレイ	11
Sun Blade 6000 ディスクモジュール	11
Sun Storage F5100 フラッシュアレイ	11
サポートされる拡張モジュール	12
重要な修正	13
Sun Storage Common Array Manager ソフトウェア	13
Sun Storage F5100 アレイ FMod (D11B ファームウェア)	14
6000 シリーズアレイ (7.60.36.10 ファームウェア)	14
2500 シリーズアレイ (7.35.55.10 ファームウェア)	16
既知の問題	16
アレイに関する問題点	17
構成に関する問題点	20
マニュアルに関する問題点	25
ファームウェアアップデートに関する問題	26
インストールに関する問題点	28
Linux における問題	29
ローカライズ版に関する問題点	31
Solaris に関する問題点	32
サポートへの連絡	33

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアリリースノート

このドキュメントには、Oracle の Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアを無償でダウンロードする方法と、6.7.0 製品リリースの新機能、関連マニュアル、システム要件、重要な修正、既知の問題などの情報が記載されています。

インストール、構成、およびその他の手順については、[6 ページの「マニュアル」](#)を参照してください。

このリリースノートは、次の節で構成されます。

- [2 ページの「ソフトウェアについて」](#)
- [2 ページの「ソフトウェアの入手方法」](#)
- [3 ページの「ソフトウェアの内容」](#)
- [4 ページの「このリリースの新機能」](#)
- [6 ページの「マニュアル」](#)
- [7 ページの「システム要件」](#)
- [10 ページの「ファームウェア」](#)
- [12 ページの「サポートされる拡張モジュール」](#)
- [13 ページの「重要な修正」](#)
- [16 ページの「既知の問題」](#)
- [34 ページの「サポートへの連絡」](#)

ソフトウェアについて

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアは、ストレージアレイを構成、管理、および監視する使いやすいインタフェースを提供します。

ソフトウェアは分散アーキテクチャーを備えており、ローカルドメインおよびリモートドメインを指定してストレージ環境を構成および管理することにより、最適な効率性と生産性を実現できます。

Sun Storage Common Array Manager には次のものが含まれています。

- ブラウザインタフェース
- ローカルコマンド行インタフェース
- リモートコマンド行インタフェース

コマンド行インタフェース (CLI) は、ブラウザインタフェースと同じ制御機能および監視機能を実行します。CLI の操作に慣れていない方にとっては、ブラウザインタフェースを使用したほうがアレイを容易に管理できます。

ソフトウェアの入手方法

1. 次のページにアクセスします。
http://www.sun.com/storage/management_software/resource_management/cam/get_it.jsp
2. 「Get the Software」をクリックします。
3. 使用しているオペレーティングシステム用のパッチを選択してダウンロードします。

次の作業...

インストール、構成などの詳細については、[6 ページの「マニュアル」](#)を参照してください。

最新のソフトウェアアップデートについては、[9 ページの「パッチ」](#)を参照してください。

ソフトウェアの内容

表 1-1 に、このリリースに含まれるソフトウェアのバージョン情報を示します。

表 1-1 Sun Storage Common Array Manager の内容

タイプ	バージョン
Sun Storage Common Array Manager	6.7.0
Oracle Java Web Console ソフトウェア	3.1
Oracle Java 2 Software Development Kit	1.6 u20
ファームウェアファイル	10 ページの「ファームウェア」 を参照してください。
リモートスクリプト CLI クライアント	2.1.4

上級機能 (オプション) のライセンス

ライセンスを購入して使用できる、さまざまな上級機能があります。ライセンスを注文すると、その機能をアクティブにする方法の説明とともにライセンスが送付されます。詳細は、オンラインヘルプページで次の項目を検索してください。

- ライセンス機能について
- ライセンスの追加
- ライセンスの管理

注 - ライセンスを追加する前に、アレイに名前を付ける必要があります。

このリリースの新機能

このリリースでは、次の機能が導入されました。

- グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) の Oracle ブランド化
- 更新された Sun Blade 6000 ディスクモジュールおよび Network Expander Module (NEM) ファームウェア
- Oracle の VMware 管理ホスト
- 更新された Sun Storage 6000 アレイファームウェア version 7.60.36.13
- 更新された Sun Storage F5100 フラッシュアレイの FMod ファームウェア version D11B
- Windows Server 2008 R2 プラットフォームのサポート

注 - Sun Storage Common Array Manager Release 6.x から 6.7.0 へのホストソフトウェアのアップグレードがサポートされています。

CLI を使用した最大ボリュームサイズを選択

「create volume」コマンドを使用して新しいボリュームを作成する場合、仮想ディスク (vdisk) 上で使用可能なすべての領域を使用して指定する方法が 2 つがあります。

- 新しいボリュームと vdisk を同時に作成する場合は、**-F,--fill-vdisk** オプションを使用します。これは、指定されたプールの属性に一致する、最大の vdisk を作成します。
- 既存の vdisk 上に新しいボリュームを作成する場合は、**-s,--size** オプションに値「max」を指定します。値「max」は、「create volume」コマンドの特定の構文のバリエーションに対してのみ有効です。例:

```
sscs create -a | --array <array-name> -p | --pool <pool-name> -s | --size  
<number><TB | GB | MB | KB | Bytes | BLK> | max> [-v | --vdisk <virtual-disk-name>]  
volume <volume-name>
```

この情報は、現在 CLI Guide やマニュアルページでは説明されていません。「create volume」コマンドのバリエーションの最新リストを入手するには、Sun Storage Common Array Manager CLI Guide で説明されている **--help** オプションを使用してください。

CLI の更新された os-type 値

Release 6.7 以降、次のコマンドは、`-o|--os-type` オプション用の更新された値を受け入れます。

- `sscs create initiator`
- `sscs modify initiator`
- `sscs modify array`

`os-type` オプションは、「`list -a <array> os-type`」コマンドによって返される値を受け入れます。このコマンドおよび前述の 3 つのコマンドの詳細については、『**Sun Storage Common Array Manager CLI Guide**』を参照してください。

`os-type` オプションは、ユーザーが作成した CLI スクリプトとの下位互換を維持するために、従来の値 (表 1-2 を参照) も受け入れます。可能な限り、新しい `os-type` 値を使用してください。

表 1-2 `os-type` 値

従来の <code>os-type</code>	新しい <code>os-type</code>
<code>solaris</code>	<code>SOLARIS_MPXIO</code>
<code>solaris_dmp</code>	<code>SOLAVT</code>
<code>sun_storedge_nas_gateway</code>	<code>SUN_SE5XXX</code>
<code>win2k_non_clustered</code>	<code>WIN2KNETNCL</code>
<code>win2k_clustered</code>	<code>W2KNETCL</code>
<code>win2k_non_clustered_dmp</code>	<code>W2KNETNCLDMP</code>
<code>win2k_clustered_dmp</code>	<code>W2KNETCLDMP</code>
<code>aix</code>	<code>AIX</code>
<code>aixavt</code>	<code>AIXAVT</code>
<code>hpux</code>	<code>HPX</code>
<code>linux</code>	<code>LNx</code>
<code>netware_failover</code>	<code>NWRFO</code>

仮想ディスク上のボリュームの削除の機能拡張

version 6.7 以降、使いやすさを向上するため、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)/ ブラウザユーザーインターフェース (BUI) では、仮想ディスク上の最後のボリュームを削除する場合に仮想ディスクを保持します。仮想ディスクを削除する場合、ユーザーは手動で削除するよう求められます。

ユーザースクリプトとの互換性を維持するため、CLI の動作は変更されていません。最後のボリュームが削除されると、CLI は仮想ディスクを自動的に削除します。

CLI が拡張され、仮想ディスクの最後のボリュームが削除されるときに仮想ディスクを保持する、新しい「-k」オプションが提供されました。コマンドの構文は「`sscs delete -a <array> -k volume <volname>`」です。

マニュアル

ハードウェアの情報については、そのアレイの『ご使用にあたって』および、ハードウェア設置マニュアルを参照してください。

オンラインヘルプとマニュアルページは、ソフトウェアに組み込まれています。次の表は、**Sun Storage Common Array Management** ソフトウェア関連のその他のマニュアルを示しています。

マニュアルは <http://docs.sun.com> で検索できます。

表 1-3 Sun Storage Common Array Manager: 関連マニュアル

Sun Storage Common Array Manager 関連のマニュアル

Sun Storage Common Array Manager クイックスタートガイド

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアインストールおよび設定マニュアル

Sun Storage Common Array Manager CLI Guide

Sun Storage Array Baseline Firmware

Sun Storage F5100 フラッシュアレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4200 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4400 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun Storage J4500 アレイのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide

Sun Blade 6000 ディスクモジュールのマニュアル (『ご使用にあたって』など)

Sun StorageTek 2500 シリーズアレイ ご使用の手引

Sun StorageTek 2500 シリーズアレイ ご使用にあたって

Sun StorageTek 2500 Arrays Firmware Upgrade Guide

アレイのリリースノート

Sun Storage 6580 および 6780 アレイハードウェア設置マニュアル

Sun Storage 6580 および 6780 ラック型アレイ ご使用の手引き

Sun StorageTek MPIO デバイス固有モジュールインストールガイド Microsoft Windows OS プラットフォーム用

Sun StorageTek RDAC フェイルオーバードライバインストールガイド Linux OS 用

システム要件

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアのシステム要件を、次の節で説明しています。

- [7 ページの「サポートされるアレイ」](#)
- [8 ページの「サポートされる Web ブラウザ」](#)
- [9 ページの「サポートされる言語」](#)
- [9 ページの「パッチ」](#)
- [10 ページの「サポートされるプラットフォーム」](#)

サポートされるアレイ

Sun Storage Common Array Management ソフトウェアでは、次の Sun ストレージシステムがサポートされています。

- Sun Storage 6180 アレイ
- Sun Storage 6580 アレイ
- Sun Storage 6780 アレイ
- StorEdge 6130 アレイ
- StorageTek 6540 アレイ
- StorageTek 6140 アレイ

- StorageTek 2510 アレイ
- StorageTek 2530 アレイ
- StorageTek 2540 アレイ
- StorageTek FLX380 アレイ
- StorageTek FLX280 アレイ
- StorageTek FLX240 アレイ
- Sun Storage F5100 フラッシュアレイ
- Sun Storage J4200 アレイ
- Sun Storage J4400 アレイ
- Sun Storage J4500 アレイ
- Sun Blade 6000 ディスクモジュール
- Sun Blade 6000 Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 10GbE Multi-Fabric Network Express Module
- Sun Blade 6000 Virtualized Multi-Fabric 10GbE Network Express Module

サポートされる Web ブラウザ

表 1-4 サポートされる Web ブラウザ

ブラウザ	サポートされるバージョン
Firefox	3.0 以降
Microsoft Internet Explorer	6.0

ブラウザのパフォーマンスのためのベストプラクティス

ブラウザのパフォーマンスを改善するには、次のようにします。

- ポップアップウィンドウを有効にする。
- **Sun Storage Common Array Manager** ホストのプロキシを指定しない。プロキシを指定しないことで、ブラウザがハングアップ、タイムアウト、またはエラーメッセージを生成する可能性がある状況を回避します。「設定」>「詳細」>「プロキシ」(または使用しているブラウザでこれに類似するメニュー)を選択して、**Sun Storage Common Array Manager** の管理ホスト名を「プロキシなしのホスト」セクションに加えます。
- **Firefox** の最近のバージョンでは、認証ページを開く前に、セキュリティ証明書を受け入れて追加するように求められる場合があります。

サポートされる言語

ロケールはインストールの一部であるため、該当するパッチ以外にほかのソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

Solaris、Linux、および Windows では、ブラウザユーザーインターフェース (BUI) は、次の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- 日本語
- 簡体字中国語

コマンド行インターフェース (CLI) は次の言語で使用できます。

- 英語

オンラインヘルプは次の言語に対応しています。

- 英語
- 簡体字中国語
- 日本語

マニュアルページは次の言語に対応しています。

- 英語
- 日本語

パッチ

最新のパッチについては、**2 ページの「ソフトウェアの入手方法」** および <http://sunsolve.sun.com> を参照してください。

Solaris を使用している場合、パッチを入手するには、**Solaris 10 Update 4** 以降をインストールします。

- Solaris 10 SPARC U4-U7 SES/SGEN ドライバパッチ
- Solaris 10 SPARC MPT SAS ドライバ
- Solaris 10 x86 U4-U7 SES/SGEN ドライバパッチ
- Solaris 10 x86 U4-U7 MPT ドライバパッチ

LSI HBA パッケージについては、**HBA** のマニュアルを参照してください。また、<http://www.lsi.com/support/sun> も参照してください。

サポートされるプラットフォーム

表 1-5 サポートされるプラットフォーム

プラットフォーム	オペレーティングシステム
SPARC サーバーまたはワークステーション	Solaris 9 OS
	Solaris 10 OS
	OpenSolaris 2009.06
Windows サーバー	Windows 2003 SP2
	Windows XP Professional SP3
	Windows Server 2008 SP2
	Windows Server 2008 R2
x64 コンピュータ	Red Hat Linux 4.7
	Red Hat Linux 5.4
	SuSE Linux Enterprise Server 11
	SuSE Linux Enterprise Server 10 SP3
	Oracle Enterprise Linux 5.4
x86 コンピュータ	Oracle VM 2.2
	Solaris 10 OS
	OpenSolaris 2009.06

ファームウェア

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアとともに配布されるファームウェアは、「ファームウェアのベースラインをインストール」機能を使用してインストールできます。ただし、ファームウェアのリリースを別のメジャーリリースへと移行する際には、特別な手順が必要となる場合があります。

アップグレードを試行して失敗した場合は、
<http://www.sun.com/contact/support.jsp> でサポート担当者にお問い合わせください。

コントローラ、NVS RAM、IOM、ディスクドライブ、バージョン、およびファームウェアファイルなど、ベースラインファームウェアの情報は、『**Sun Storage Array Baseline Firmware**』 (Part No. 821-0136) を参照してください。

2500 アレイ

25xx アレイの場合、バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。『Sun StorageTek 2500 アレイシリーズファームウェアアップグレードユーティリティガイド』(820-6362) を参照してください。

6540、6140、および FLX380 アレイ

バージョン 06.xx.xx.xx から 07.xx.xx.xx へのアップグレードには特別なユーティリティが必要です。『6000 シリーズアレイファームウェアアップグレードガイド』(821-0101-10) を参照してください。

J4000 アレイ

JBOD のインストールを Sun Storage Common Array Manager version 6.6 以降にアップグレードする前に、HBA を Phase 14 ファームウェア (1.26.03) 以上にアップグレードすることがベストプラクティスです。これは、HBA がアップグレードされていない場合に、ファームウェア (J4200/J4400 - 3A53/3R53) を使用する JBOD の検出に関する問題を回避するのに役立ちます。

Sun Blade 6000 ディスクモジュール

ファームウェアのアップグレード手順を開始する前に、マニュアル『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』(Part No. 821-1800) を確認してください。このマニュアルには、正常なファームウェアのアップグレードに必要な情報が記載されています。この情報はサービスアドバイザーには含まれていません。

Sun Storage F5100 フラッシュアレイ

FMod ファームウェアのアップグレード手順では、格納装置の電源を手動で再投入する必要があります。

サポートされる拡張モジュール

アレイ構成に拡張モジュールを追加するには、サービスアドバイザに記載されている手順に従います。

次の表は、アレイ構成に追加できる、サポートされている拡張モジュールを示しています。

表 1-6 サポートされる拡張モジュール: 6000 シリーズアレイ

アレイコントローラ	サポートされる拡張モジュール
Sun Storage 6180	CSM200
Sun Storage 6580	CSM100、CSM200、FLA300、 FLC200
Sun Storage 6780	CSM100、CSM200、FLA300、 FLC200
Sun Storage 6540	CSM100、CSM200、FLA200、 FLC200、FLA300
Sun Storage 6140	CSM100、CSM200、FLA200、 FLC200、FLA300
StorEdge 6130	CSM100、CSM200

表 1-7 サポートされる拡張モジュール: 2500 シリーズアレイ

アレイコントローラ	サポートされる拡張モジュール
StorageTek 2510、2530、2540	2501

表 1-8 サポートされる拡張モジュール: FLX240、FLX280、および FLX380 アレイ

アレイコントローラ	サポートされる拡張モジュール
StorageTek FLX240	CSM200、FLA200、FLC200、 FLA300
StorageTek FLX280	CSM200、FLA200、FLC200、 FLA300
StorageTek FLX380	CSM200、FLA200、FLC200、 FLA300

コントローラ、NVS RAM、IOM、ディスクドライブ、バージョン、およびファームウェアファイルなど、ベースラインファームウェアの情報は、『Sun Storage Array Baseline Firmware』(Part No. 821-0136) を参照してください。

重要な修正

Sun Storage Common Array Manager ソフトウェア

6605647 - CAM がストレージプールの容量を誤ってレポートする。

6620849 - Solaris 10 に Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアをインストールすると、ZFS admin コンソールアプリケーションが起動ページに表示されない。

6637189 - サービスアドバイザの拡張トレイの配線手順が間違っている。

6697677 - sscs の日付変更コマンドが、状況に関係なく値を要求する。

6751318 - 6.2.0.11: 手順 1.1 のディスクの静的な値を使用した追加の特殊文字: ストレージの選択 - 「プールの作成」ページ。

6751334 - 6.2.0.11: 手順 1.1 の追加の静的な (最大ボリュームサイズ) 値 - 「プールの作成」ページ。

6804689 - 仮想ディスク上のボリュームの削除手順の変更。6 ページの「仮想ディスク上のボリュームの削除の機能拡張」を参照してください。

6833055 - プロファイルが限られた数のディスクを使用している場合、ボリュームの作成に失敗する。

6910817 - 6.5.0.10: マニュアルページに記載されている、指定された OS の種類が有効ではない。

6932431 - 6.5.0 sscs list コマンドが「Unauthorized client connection」というメッセージを表示して失敗することがある。

6935284 - GUI で選択したホストタイプが、アレイで使用されている正しいホスト領域と一致しない。

6941548 - Sun Blade 6000 ディスクモジュールのファームウェアをアップグレードできない。

6943674/6933921 - CAM 6.6.0.11 が検出した J4400 アレイを「health as Lost Communication」に設定する。

6950805 - CAM 6.6: Sun Storage F5100 ASR がシャーシのシリアル番号を使用しない。

6954082 - ボリュームの作成中に CLI で最大サイズを選択できない。

6958969 - 6.7.0.9: ゲストユーザーが GUI でアクセス構成の詳細を変更できる。

6959052/6946811 - J4400 のディスクファームウェアのアップグレードに失敗する。RW2 格納装置のキーフィールドが見つからない。

Sun Storage F5100 アレイ FMod (D11B ファームウェア)

6906542 - 2 次的欠陥数が 200 を超過したときのための SMART しきい値が追加されました。

6946828 - 2M バイトより大きいブロックサイズでの大量のランダムデータ転送のあとに、FMODE が応答しなくなる。修正によって、FMODE をレンダリングデータが回復不能なゾンビにする、バッファリソースの割り当て超過が回避されます。

6951420 - 32 以上のスレッド数を持つ (32 以上のキューコマンド)、8M バイト以上のデータ転送ブロックサイズで、FMODE が応答しなくなる。修正によって、FMODE をレンダリングデータが回復不能なゾンビにする、NAND コントローラのブロックアドレス指定の制限超過が回避されます。

6951584 - キャッシュフラッシュ付きで、連続して何百回 (800 回以上) も電源を入れ直したあと、FMODE が応答しなくなる。この失敗は、電源の再投入、書き込み、電源の再投入の厳しいループによるものです。通常の処理中に行われるリソースのクリーンアップを妨げ、最終的にレンダリングデータが回復不能なゾンビになります。修正によって、FMODE のリソースはデバイスの電源投入時に開放されます。

6959533 - キャッシュフラッシュ付きで何百回 (900 回以上) も電源を入れ直したあと、FMODE が応答しなくなる。電源再投入の前に毎回行われる 1 回以上の書き込み、または SMART クエリーによって、リソースが使い果たされます。電源の再投入間のランタイムの量は関係ありません。パフォーマンスが低下して、結果的に FMODE が応答しなくなり (ゾンビ)、レンダリングデータが回復不能になります。修正によって、デバイスの電源投入時にリソースが回復されます。

6000 シリーズアレイ (7.60.36.10 ファームウェア)

6704575 - PFA に関連する、誤った「潜在的な問題」の警告。誤った警告はほかのドライブに移行されます。

6829399 - ドライブの交換後にトレイの障害 LED (SAR) が点灯する。

6829972 - スナップショットディレクトリデータベースからの必要な読み取りを処理するバッファの不足によるコントローラの再起動。

6868517 - コントローラの再起動が「PANIC: OGM:commit EventList backlog queue is full.」でループする。

6877026 - ウォッチドッグのタイムアウト時にスタックトレースをダンプする LSI RFE。

6891452 - ファームウェアを 7.60.18.10 に更新したあと、1 つのコントローラで書き込みキャッシュが中断される。

6892704 - ccmShowState が、出力で誤ったコントローラをレポートする。

6897209 - 「ssid <&eq; INVALID_LUN」パニックの繰り返しにより MEL がいっぱいになる。

6899612 - 大容量ブロックの逐次入出力 (128k、256k) 中に、コントローラが再起動し、テストが失敗することがある。

6899800 - FLX380 の複数のコントローラが同時に再起動する。

6908242 - ターゲットのリセットが行われている間、代替ドライブチャンネルに送信される入出力によってドライブがタイムアウトする。

6908548 - パニック: smsInsertIntoTree。ボリュームのデフラグでの 6 分間のリセットのあと、重複したストライプを挿入しようとする。

6909863 - コンポーネントの場所でいっぱいになった MEL: 未定義。

6912295 - パニック: sasRemoveFromSemMap: sasSendTaskMgmtWaitSems で mfx2a8ee40 のセマフォが見つからない。

6912756 - 推奨される構成で自動ボリューム構成を行おうとすると通信エラー (「Error 1000」) になる。

6912763 - コントローラの再起動のあと、進行中の HSW 処理から IAF 処理の表示がなくなる。

6912768 - 6091 での sysReboots 中の古い入出力。

6916061 - 高いキューの深さ buf_t が原因の、古い入出力の再起動 (DDC 付き)。

6916064 - RVM コントローラによるテストのリセット中の、予期しないコントローラのリセット。

6919260 - パニックによるコントローラの再起動: getEvents(): invalid MEL (seq 0x117c) signature, skip

6926863 - Ethernet ドライバのバグによって発生した二重の不一致の問題。

6927381 - ネットワークが原因のコントローラの再起動。

6942168 - `getCtlSocErrStats` が静的データ構造を使用するとパニックになる。

6944349 - `sysReboot` 後、IPv6 ISNS を使用した `0x11b6204c` でのメモリー開放エラー。

6945475 - デバッグキュー (DQ) データが持続しない。

2500 シリーズアレイ (7.35.55.10 ファームウェア)

6895450 - VMware ESX 3.5 以降を使用した 2510 でのマルチパスのサポート。

6925370 - Ethernet ドライバのバグによって発生した二重の不一致の問題。

6927505 - 2530 で古い入出力用の DDC を収集するときに、DDC の DQ ログのみで、トレース部分がない。

6931813 - スナップショットディレクトリデータベースからの必要な読み取りを処理するバッファの不足によるコントローラの再起動。

6944608 - 電源の再投入後、コントローラのキャッシュメモリーの復旧に失敗する。または CFW の更新中にコントローラのキャッシュメモリーがリセットされる。

既知の問題

このセクションでは、既知の問題と推奨の回避策について説明します。

- [17 ページの「アレイに関する問題点」](#)
- [21 ページの「構成に関する問題点」](#)
- [26 ページの「マニュアルに関する問題点」](#)
- [27 ページの「ファームウェアアップデートに関する問題」](#)
- [29 ページの「インストールに関する問題点」](#)
- [30 ページの「Linux における問題」](#)
- [32 ページの「ローカライズ版に関する問題点」](#)
- [33 ページの「Solaris に関する問題点」](#)

アレイに関する問題点

両方の RAID コントローラが 828.5 日後に再起動する -- 6000 アレイ

バグ 6872995、6949589 – 828.5 日の連続操作のあと、両方の RAID コントローラが再起動します。「vxAbsTicks」と呼ばれるファームウェアのタイマー (vxWorks) は、数字を **0x0000 0000** の形式で保持する **32 ビット (ダブルワード)** の整数です。このタイマーが **0xffffffff** から **0x00000000** にロールオーバーすると (約 **828.5 日後**)、ボリュームへのホストの入出力がある場合、関連するドライブは書き込みエラーになります。

元の解決方法 – 24 時間ごとに、ファームウェアは「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。これは、**vxworks** カーネルのタイミングカウンタの値を確認するタスクです。ファームウェア **03.xx - 06.60 (6000 シリーズ)** を使用するコントローラおよびファームウェア **0.3xx - 6.70 (2500 シリーズ)** を使用するコントローラ: カウンタの値が **825 日**よりも大きくなると、両方のコントローラが再起動されます。

最終的な解決方法 – 24 時間ごとに、ファームウェアは「cfgMonitorTask」というタスクを発生させます。これは、**vxworks** カーネルのタイミングカウンタの値を確認するタスクです。

この修正によってコントローラの再起動が約 **5 日**に調整されるため、再起動の発生中に生じる影響は、ごくわずかなパフォーマンスの低下だけになります。

ファームウェア **07.15 以降 (6000 シリーズ)** を使用するコントローラおよびファームウェア **07.35 以降 (2500 シリーズ)** を使用するコントローラ: カウンタの値が **820 日**よりも大きくなると、コントローラ **A** が再起動されます。コントローラ **B** は、カウンタの値が **825 日**よりも大きくなると再起動されます。

注 - 2500 単一構成の場合、または、コントローラが何かの理由ですでにオフラインである場合は、フェイルオーバーのための冗長性はありません。

帯域内管理アレイのコントローラのリセットに関する問題

バグ 6603978 - アレイと管理ホストの間の物理接続が確認されている場合でも、帯域内管理アレイのコントローラをリセットできません。

回避策 – 構成中に、両方のコントローラが接続されていることを確認します。アレイを登録解除し、そのあとで再登録します。

Oracle Java Web Console 3.0.2 が保守モードになる

バグ 6657309 - Oracle Java Web Console Version 3.0.2 が、非アクティブの状態になって数分経過したあと、保守モードになり、次のようなエラーが表示されます。

```
m4000 gconfd (noaccess-2277): I can't write to '/var/tmp/orbit-noaccess', ORB init failed
```

Reason: Method failed.

See: `man -M /usr/share/man -s 1M smcwebserver`

See: `/var/svc/log/system-webconsole:console.log`

Impact: This service is not running.

回避策 - UNIX ホストの場合、ディレクトリのアクセス権を **01777** に設定し (`chmod 01777 /var/tmp`)、Oracle Java Web コンソールを再起動します。

Oracle Java Web Console サービスの失敗 -- InstallShield で間違ったスイッチが表示される

バグ 6792599、6753860 - InstallShield で、エラーメッセージに間違ったスイッチが示されます (正しいスイッチは `-c`)。

- GUI ベースのインストールの失敗で無効なスイッチオプションが示されます。
- Oracle Java Web Console サービスのデフォルトの 40 ビット SSL キーが、FIPS/Fed autids に失敗します。
- テキストベースのインストールで Sun Storage Common Array Manager のインストールを試みる場合、正しいスイッチを追加しないと、インストーラをグラフィックモードで実行できません。

回避策 - 次のように指定してインストーラを実行します。

`-c flag`

```
root@sx-dimen-a04# ./RunMe.bin -c
```

注 - JVM のデフォルトの暗号化の変更または Tomcat 構成ファイルの変更については、サポート (<http://www.sun.com/contact/support.jsp>) にお問い合わせください。

非適合アレイでのエラー

ライセンスが無効または不足しているためにアレイが非適合となっている場合、次のような複数の操作が実行されない可能性があります。

- 標準 RAID ボリュームの作成
- 自動構成
- ストレージパーティションマッピングの作成
- ホットスペアの割り当て

スナップショットボリュームの作成

「パフォーマンス監視」のページに帯域内の統計が表示されない

バグ 6681582 - 「パフォーマンス監視」のページで「パフォーマンス」の統計が使用できないと表示されます。

回避策 - 管理ホストからアレイへの物理的な接続を確認します。接続に問題がない場合、そのアレイの登録を解除したあと、再度登録してみます。

大規模な構成で古い入出力が中止されるために再起動が発生する

バグ 6931169 回避策 - `vdisk` が 32 個以上のボリュームで構成されている構成では、`vdisk` の再構成 (動的な容量拡張 (DCE) や動的なボリューム拡張 (DVE) など) を実行しているときにホストの入出力を休止することがベストプラクティスです。こうすることにより、ホストの入出力エラーや、設定処理の完了前に発生する可能性のある内部コントローラの再起動を回避できます。

ボリュームコピーのライセンスの削除時の、ボリュームコピーのインスタンス

バグ 6826242 - インストールされているボリュームコピーのライセンスを削除すると、複製セットのライセンスを有効にできません。

これはそのように設計されているためです。アレイはボリュームコピーのライセンスに準拠している必要があります。そうでない場合は、次の操作を実行できません。

- 標準 RAID ボリュームの作成
- 自動構成
- ストレージパーティションマッピングの作成
- ホットスペアの割り当て
- 動的なセグメントサイズ変更 (DSS) および動的な RAID 移行 (DRM)
- 動的な容量拡張 (DCE) および動的なボリューム拡張 (DVE)
- スナップショットボリュームの作成
- リモートボリュームミラー (RVM) の有効化およびミラーペア確立ボリュームコピー

■ 確立操作およびコピー開始操作

ストレージレイで複数のパフォーマンス層がサポートされる場合は、この状況を解決してレイが準拠するようにしないかぎり、ストレージレイを次に再起動したあとでパフォーマンスの問題が発生します。

解決方法 – 一般情報については、[3 ページの「上級機能 \(オプション\) のライセンス」](#)も参照してください。

構成に関する問題点

アクセス構成: カスケード構成の J4400 に関する問題

バグ 6924446、6924428、6925163、6925341 – 自動保存ゾーンテンプレートがインポートを行わない。カスケード構成の **J4400** が間違った **PHY** ポートデータを返す。ゾーンなしでポートに接続されたホストが **J4400** のすべてのディスクを確認できません。

回避策 -- **J4400** アレイのカスケードには「HostOrSimLinkIn」ポートのみを使用します。

アクセス構成がエラー「java.util.HashMap cannot be cast to java.util.Properties」で失敗する

バグ 6928490 – このエラーは、ホストへのデュアルパス (1 つは **SIM0** ドメインに接続された **HBA**、もう 1 つは **SIM1** に接続された同じホストの **HBA**) を持つ、カスケード構成の **J4200** および **J4400** アレイの構成で確認されています。

回避策 – 操作をやり直してください。

アクセス構成: ローカルホストの SAS ドメインと FMod が表示されない

バグ 6965605 – ローカル (リモートではない) データホストが登録されている場合、**FMS** はローカルホストからのホストレポートを削除します。

回避策 – ローカルホストのアドレスを使用してアレイを再登録します。この 2 番目に再追加したものが、見つからない **SAS** ドメイン、**HBA**、およびディスクです。ホストレポートの削除を回避するためには、最初にリモートデータホストを登録し、次にローカルホストを登録します。

アレイのロックキーは、構成ファイルをインポートする前に設定されている必要があります。

インポートする構成ファイルにセキュリティー保護されたボリュームが含まれている場合、この構成をインポートする前に、アレイのアレイロックキーを設定する必要があります。セキュリティー保護されたボリュームが検出されたが、アレイロックキーが設定されていない場合、インポートの検証手順は失敗します。インポートジョブは開始されず、ターゲットアレイ上の設定は変更されません。

CLI - `sscs service locate --off` が、間違った「成功」ステータスをレポートする

バグ 6960316 – Sun Storage F5100 で `sscs service -a <array-name> locate` を実行すると、期待通りに動作します。ただし、`sscs service locate --off` は、「成功」ステータスをレポートしている場合でも、**F5100** のロケータ LED をオフにしません。

回避策 – サービスアドバイザを使用してこのコマンドを実行します。

CLI - `sscs service locate` に `-t` オプションを使用するとエラーメッセージが表示される

バグ 6955577 **回避策** – ターゲットを持つホストから CLI コマンドを実行するか、サービスアドバイザを使用します。

CLI - 「`sscs add -d registeredarray`」のあとに警告メッセージが表示される

バグ 6796540 - 「`sscs add -d registeredarray`」コマンドの実行後、関連付けられたアレイがホストに登録されたあとで、次のメッセージが GUI に表示されます。「このページのスクリプトは処理に時間がかかっているか応答しなくなっています。今すぐスクリプトを停止するか、このまま処理を続行させるか選択してください。」

回避策 - 「処理を続行」をクリックしてスクリプトを許可します。GUI の実行中に、CLI を使用してアレイに登録しないでください。

6130/FLX240 アレイのコントローラの概要ページの ID 値が間違っている

バグ 6958256 – これは書式設定の問題で、将来のリリースで修正される予定です。

「現在のジョブ」ページを表示するのに 5 分以上かかる

バグ 6871197 - 1023 個のボリュームコピーを持つ Sun Storage 6180 アレイでは、「現在のジョブ」ページの表示に 5 分以上を要します。

回避策 - 「現在のジョブ」ページを再度クリックすると、ページがより迅速に表示されます。

エクспанダファームウェア 5.3.73 では SAS ゾーングループが維持されない

バグ 6938593 - Sun Storage F5100 フラッシュアレイのエクспанダファームウェア 5.3.73 は、イニシエータの SAS アドレスが変更になった場合、SAS ゾーングループを維持しません。イニシエータの SAS アドレス変更は、ホストが再起動されたこと、または新しいイニシエータが以前にゾーン分けされていた **F5100** のポートに差し込まれたことが原因で発生する可能性があります。SAS アドレスを変更すると、**Sun Storage Common Array Manager** はイニシエータとデバイスが関連付けられていると報告します。しかし実際には、**F5100** のエクспанダは、ホストとゾーン分けされたデバイスを分離しています。これにより、ホストは、ゾーン分けされたデバイスにアクセスできなくなります。

回避策 - 新しいイニシエータのアドレスを既存のデバイスと再ゾーン化し、新しいホストのイニシエータをターゲットデバイスに関連付けます。この問題は **F5100** のエクспанダファームウェア 5.4.4 で修正されます。

FMS が保守モードのまま動かなくなる

バグ 6955139 - S10_u8 Sparc に **Sun Storage Common Array Manager** をインストールするとき、「カスタム」>「データホストエージェントのインストール」コマンドを使用すると、FMS が保守モードのままになります。

回避策 - (例では Solaris 10 10/09 s10s_u8wos_08 SPARC を使用)

```
# ./fmservice.sh status
STATE      STIME    FMRI
maintenance May_21   svc:/system/fmservice:default
# ps -ef | grep fms
root 681    1 0 May 21 ?      14:05
/opt/se6000/java_1.6.0/usr/java/bin/java -Xmx128m -DSUNWsefms=
/opt/SUNWsefms -
root 3956 3916 0 18:23:32 pts/1    0:00 grep fms
# kill 681
# ps -ef | grep fms
root 3958 3916 0 18:23:45 pts/1    0:00 grep fms
# ./fmservice.sh status
STATE      STIME    FMRI
disabled   18:23:29 svc:/system/fmservice:default
# ./fmservice.sh start
svc:/system/fmservice:default enabled.
```

```
# ./fmsservice.sh status  
  
STATE      STIME    FMRI  
online     18:24:16 svc:/system/fmsservice:default
```

または

CAM イメージから **RunMe.bin -k** を実行。

空き容量の計算が合わない

バグ 6800666 - ストレージシステムの「空き容量」で「ストレージの使用状況」の計算が合いません。

これはそのように設計されているためです。- ストレージシステムの空き容量を計算する場合、**Sun Storage Common Array Manager** は、ページに表示されたあまり正確ではない値ではなく、各ディスクの空き領域を正確に合計します。この計算による値は空き領域の合計を正確に表示したものであるので、表示されている値の合計とは若干異なる場合があります。

ジョブのチェックボックスが表示されない、ジョブを取り消せない

バグ 6600387 - 容量の大きなボリュームの作成など時間がかかるジョブの実行中に、現在のジョブのステータスに「取消し」のチェックボックスが表示されません。一部のジョブが、アレイ上で開始すると取り消すことができなくなります。

回避策 - キューに、アレイで実行する複数のジョブが含まれている場合、GUI がアレイに次のジョブを送信する時点でジョブを取り消すことができます。

1 次ボリュームが失敗した場合に、複製のステータスの表示が正しく表示されない

バグ 6561709 - 複製セット (6xxx アレイ) の 1 次ボリュームが失敗すると、管理ソフトウェアが誤ってボリュームが複製中であると表示する場合があります。

SAS ドメイン - リンクをクリックするとツリーが折りたたまれる

バグ 6819851 回避策 - 目的の場所でツリーを再度開きます。

FLX280 の「管理」ページで、シリアル番号のプロパティーにアレイの WWN 値がある

バグ 6967325 - FLX280 の「管理」ページに表示されるシリアル番号の値は、実際にはそのアレイの WWN です。FLX280 にはシリアル番号がありません。そのため、「管理」ページと「ライセンス」概要ページで矛盾が発生します。その他のすべてのアレイでは、これらのページと値は同期しています。

サービスアドバイザー - デュアルパス構成の不良 SIM の交換

カスケード構成の JBOD を持つゾーン内のホストへのデュアルパスがあり、不良 SIM を交換する必要がある場合、新しい SIM に SAS ケーブルを差し込むと問題が発生することがあります。これは、新しい SIM がゾーン化されておらず、古いゾーンが復元されるまで、すべてのホストがすべてのディスクを参照するためです。

回避策 - 不良 SIM を交換する前に、デュアルパス構成の場合でも、すべての入出力を停止します。新しい SIM を挿入するときに、入出力の停止が必要なファームウェアをアップグレードする必要があります。不良 SIM を交換する前にこの手順を行うと、以降の入出力を試みる前に新しい SIM を再ゾーン化できます。

GHS の使用時、仮想ディスク名の変更に失敗する

バグ 6757428 - GHS の使用時、「良好」で「有効」の仮想ディスク名を変更しようとすると、失敗します。

ボリュームエラー -- evShowVol output: Initialization: Not Completed

バグ 6969328 - 25xx/6xxx アレイのサポートデータにバンドルされている stateCaptureData.dmp ファイルで、「evfShowVol output: Initialization: Not Completed」になっているボリュームが多数あります。

このバグは RAID 5 構成でパフォーマンス上の問題を引き起こします。

回避策 - サポート (<http://www.sun.com/contact/support.jsp>) に連絡し、このバグ番号を参照してください。

ボリューム名を 25 文字以下にする必要がある

バグ 6809745 - 1 つのボリュームに長い名前を割り当て、ボリュームのウィザードで複数のボリュームの作成を選択すると、機能しません。

回避策 - ボリュームに付ける名前は 25 文字以下にします。

ボリュームのセグメントサイズを変更する際、ディスク数を可変とする新しいプロファイルが必要

バグ 6599933 - ボリュームを別のセグメントサイズに変更する場合には、目的のセグメントサイズのプロファイルを新規作成し、そのプロファイルを使用してプールを作成してから、新しいプールをボリュームに適用する必要があります。しかし、元のプロファイルが可変のディスク数ではなく固定のディスク数を使用して作成されている場合、エラーが返されます。

回避策 - 新しいプロファイルを調整して、ディスク数を固定ではなく可変にします。

単一ページのウィンドウからボリュームが削除されない

バグ 6807053 - 単一ページ内でデータを表示するオプションで「ボリュームの概要」ページからボリュームを削除することができません。複数のボリュームを削除したあと、「ボリュームの概要」ページに以前と同じボリューム数が表示されます。

回避策 - ページ分けされた表示を使用してボリュームを削除します。

Windows 「"param=value"」 - CLI でサイト変更すると例外がスローされる

バグ 6800989 **回避策** - 最初の引用符の前にスペースを入れないようにします。

Windows 2008 のプロキシホストのコンピュータ名が、解決済みの IP アドレス名と一致している必要がある

バグ 6952686 **回避策** - ソフトウェアが JBOD アレイのプロキシホストを監視するようにするため、**Windows 2008** コンピュータの名前は、解決済みのネットワーク IP アドレス名と一致する必要があります。コンピュータ名を変更して **Windows** を再起動してください。

マニュアルに関する問題点

CLI マニュアルのエラー -- help コマンドの例

version 6.7.0 の『Sun Storage Common Array Manager CLI Guide』の表 1-2 で、特定のアレイタイプまたはアレイ名用のコマンドとサブコマンドのペアの構文の表示に、間違ったサンプル出力が記載されています。「list alarm」コマンドのサンプル出力で、次の「--faultdevtype」アレイ名の仕様が間違っています。

- F5100 は f5100
- B6000 は b6000
- NEM は nem

回避策 – サンプル出力を読み取るときに、アレイ名を前出のように置き換えます。

ファームウェアアップデートに関する問題

ファームウェアに関する重要な問題の修正については、[13 ページ](#)の「**重要な修正**」を参照してください。

J4200/J4400 のファームウェアのアップグレードが失敗し、FWR_UPGRADE_FAILURE,6 というエラーが表示される

バグ 6871188、6919285、6925388 – x6250 ブレードに接続されている J4200/J4400 のファームウェアのアップグレードが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

ファームウェアアップグレードのエラー。続けて表示されるエラーメッセージおよびアレイのアラームページをチェックして、アレイに問題がないか確認してください。
- flash firmware image failed - FWR_UPGRADE_FAILURE, 6

JBOD 上のファームウェアが 3R21 のままで、すべてのディスクが同じファームウェアレベルのままです。

回避策 – これと同じ現象が **SuSE Linux** ホストで見られることがあります。**J4400 SIM** のアップグレードが、場合によって **SIM** ファームウェアの不一致により、リターンコード **6** で失敗します。これには次の **2** つの回避策が考えられます。

- ファームウェアの不一致以外でアップグレードに失敗した場合、次を行います。
アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのアップグレードウィザード (**GUI**) に戻ります。
- ファームウェアの不一致によってアップグレードに失敗した場合、次を行います。

アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、次の **CLI** コマンドのいずれかを使用してファームウェアアップグレードに戻ります。

```
sscs modify -a <array-name> -f -t sim -o -w firmware
```

または

```
csmsservice -i -a <array-name> -f -t sim -o -w
```

J4400 SATA ドライブでファームウェアのアップグレードが失敗する

バグ 6939824 回避策 - アップグレード前に、関係するディスクを別のスロットに移動すると、それらは機能低下状態ではなくなります。

エクспанダとディスクを一緒にアップグレードすると、ファームウェアアップグレードに失敗する

バグ 6916355 回避策 - アレイの電源を切ってすぐに入れ直し、ファームウェアのインストールウィザードを再実行します。そのあとで、ディスクドライブのファームウェアのアップグレードを再開します。

エージェントを実行するまで GUI にはファームウェアのアップグレードが認識されない

バグ 6873568 回避策 - エージェントが実行されるまで 5 分ほど待機するか、エージェントを手動で実行します。

FWR_DEVICE_ERROR,4 または No such Disk エラー - HBA 搭載の JBOD のアップグレード中

バグ 6926054 回避策 - Adaptec 以外の HBA を使用します。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードエラー: No such expander - 50800200006deabf SIGSEGV in Linux libSTORARC.so

バグ 6952753 回避策 - Adaptec 以外の HBA を使用します (LSI SAS コントローラを使用したブレード混在環境)。

Sun Blade 6000 ファームウェアアップグレードが、エクспанダのレベル低下により失敗する

バグ 6948014 回避策 - NEM (Network Expansion Module) および Sun Blade 6000 ディスクモジュールにアップグレードのフラグが付いた場合、NEM から先にアップグレードを実行します。その次に Sun Blade 6000 ディスクモジュールストレージのアップグレード処理を行います。詳細については、『SAS Compatibility Firmware Guide』を参照してください。

Sun Blade 6250 および 6270 - ネットワーク拡張モジュールのアップグレードが失敗する

バグ 6965677 回避策 - アップグレードを再試行するか、Adaptec 以外の HBA を使用してください。

インストールに関する問題点

一般的なパスワードの不一致エラー

バグ 6590097、6592703 - 使用したアレイのパスワードが無効な場合、構成エラーメッセージが表示されることがあります。

回避策 - 正しいアレイのパスワードを使用します。

TEMP ディレクトリがないためにインストールが失敗する - Windows プラットフォームのみ

バグ 6791511 回避策 - Windows のユーザーは、ポップアップウィンドウの指示に従うのではなく、環境変数 TEMP、TMP、および USERPROFILE の設定を確認してください。

MegaRAID / MegaCLI がある場合にインストールが失敗する

バグ 6926600 - MegaRAID/MegaCLI があると、インストールが失敗します。これらは両方とも同じライブラリの場所を使用するためです。

回避策 - MegaCLI version 8.00.23 と MSM 8.00-05 以前をインストールします。

「ユーザーアカウント制御」がオンのとき、インストールに失敗する - Windows 2008

バグ 6753949 回避策 - Windows 2008 への Sun Storage Common Array Manager のインストールに使用される管理権限を持つユーザーが、「ユーザーアカウント制御」を無効にします。

回避策 - コントロールパネルから「ユーザーアカウント」を選択し、「ユーザーアカウント制御」をオフにしてください。

アンインストーラ - 実行前にアプリケーションを停止 - Windows のみ

バグ 6769156 - アンインストーラを実行する前に、`java.exe` または `javaw.exe` を実行しているすべてのアプリケーションを停止します。

version 6.2.0.15 からのアップグレード: アレイを削除または再登録する必要がある

バグ 6871154 回避策 - Windows で Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアをアップグレードしたあと、次のコマンドを使用して、Windows の FMS を手動で再起動します。

- `C:\sc stop Sun_STK_FMS`

`C:\sc start Sun_STK_FMS`

再起動後、Windows のプロキシが動作しない

バグ 6953143 - OS を再起動したあと、Win2k8 SP2 リモートデータホストとの通信が失われます。

- 回避策 -- `proxycfg.bat` を再実行して有効にします。

Linux における問題

SATA ドライブの追加や削除にはホストの起動が必要

バグ 6835314 - SATA ドライブの追加または削除時に、Linux kernel:mptbase(Abort)が発生します。この問題は、RedHat 5.2 と SuSE 10 の両方で確認されています。

SATA ドライブを Linux ホストに追加したり Linux ホストから削除したりすると、次のメッセージが表示されます。

```
kernel: mptsas: ioc2: removing sata device: fw_channel 0, fw_id 4, phy 4, sas_addr 0x500163600010a390
```

```
kernel: mptbase: ioc1: LogInfo(0x31120101): Originator={PL}, Code={Abort}, SubCode(0x0101)
```

次のメッセージが表示されることもあります。

```
multipathd: sdd: checker msg is "tur checker reports path is down"
```

通常、(kernel: mptsas) メッセージはゾーン化動作で表示されますが、(kernel:mptbase) メッセージも表示される場合は、再起動しないとホストでドライブを適切に認識できません。

回避策 – ホストを再起動します。

RH4 で電子メール通知が機能しない

バグ 6927445 回避策 - SMTP が要求される認証を電子メール通知に使用しないようにします。Red Hat Enterprise Linux 4 で Sendmail の認証を無効にする方法については、次のページを参照してください。

<http://kbase.redhat.com/faq/docs/DOC-4113>

Sun Storage J4000 および F5100 フラッシュアレイ - Linux のホットプラグに関する問題点

J4x00/F5100 のホットプラグについては、2 つのカテゴリの問題点が確認されています。1 つは Linux ホストの再起動が必要になるもの、もう 1 つはホットプラグがサポートされないものです。これらは、次に示すように、2 つのサブセクションに分類されます。

1. ケーブルの再構成やファームウェアのアップグレードなどを行なったあとでアレイまたはそのコンポーネントが認識されない場合は、Linux ホストを再起動する必要があります。
 - StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない。
 - Sun StorageTek SAS RAID HBA とレポートが整合しておらず、FRU ディスク情報がない。これは、SAS バスの再走査時に予期される J4x00 の登録時の動作です。
 - Sun Blade 6000 ディスクモジュールでファームウェアのアップグレードが失敗する。
 - J4x00 - B0/B1 側に関連する、登録時およびアップグレード時の名前の問題。
 - J4x00 - Linux での J4x00 の登録 - `sg_map -i` コマンドでエラーが発生すると、コマンドが失敗し、ホストが再起動して `sg_map` がクリアされます。
 - アクセス構成の変更、ケーブルの再構成、ファームウェアのアップグレード、または新しいストレージの追加によってターゲット (ディスクなど) が新しく追加または削除されると、Linux カーネルの既知の問題によって、ホストがハングアップしたり、パニックが発生したりすることがあります。

バグ 6918422 – Linux のホットプラグ後、管理ソフトが JBOD を監視しなくなります。

バグ 6731595 - J4200/J4400 : Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SuSE 9 SP 4: マルチパス (デバイスマッパー): 代替 SIM で障害が発生すると、ホストがハングアップします。

バグ 6732411 - J4200/J4400: Sun StorageTek PCI-Express SAS Host Bus Adapter B3: SLES9SP4: マルチパス: Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアの SIM ファームウェアをアップグレードしたあと、JBOD への通信が切断されます。

バグ 6741578 - ホストを再起動するまで J4x00 を Linux に登録できません。

バグ 6777089 - MPT 3.16.00.00 pandora hba SAS ケーブルの挿入、エクスパンダのリセットまたは電源切断および再投入を行うと、リセットするまで x86 ホストがハングアップします。

バグ 6817878 - OS で、プロキシサーバーまでフィルタするゾーンを正しく認識できません。これは Linux ホストに固有の問題です。

バグ 6830042 - JBOD エクスパンダファームウェアのアップグレードにより、エクスパンダのリセットで Linux OS がハングアップすることがあります。

バグ 6833156 - 1.26.03.00: JBOD で電源の再投入を 2 度行なったあとで、Linux の不明なターゲット fdisk -l および sg_map -i がハングアップします。

2. Sun StorageTek SAS RAID HBA のホットプラグがサポートされていない。一般的な回避策は、ケーブルの構成変更などを行なったら、その都度アレイを再起動することです。

バグ 6723686 - J4x00 の不良ディスクドライブ (Sun StorageTek SAS RAID HBA) が報告されません。

バグ 6732704 - J4x00 の Windows エージェント (Sun StorageTek SAS RAID HBA) によって 0.0M バイトが報告されます。ドライブの FRU に一意の識別子がありません。

ローカライズ版に関する問題点

ローカライズされたシステムで非 ASCII 構成ファイル名を使用すると、インポート/エクスポートに失敗する

バグ 6829795 回避策 - インポートまたはエクスポート時に、構成ファイル名に非 ASCII 文字を使用しないでください。

Solaris に関する問題点

システム起動時にエラー「no execute access to opt/SMgr/agent/notifysmagent.sh」が発生する

バグ 6934913 – このエラーは、/opt(SMagent インストールディレクトリ) がルートパーティション以外のディスクパーティション上に作られた場合に発生します。その結果、イベント通知はなくなりますが、再走査中に **SMagent** によってディスクデバイス (UTM ボリューム) が検出されるため、悪影響はありません。notifysmagent.sh スクリプトは **SMagent** 起動スクリプトと同じディレクトリにあるため、syseventd でも使用できます。

Solaris ランタイムパッケージおよび RAID アレイプロキシエージェントパッケージの間違ったアーキテクチャーでのインストール

バグ 6665774 – 誤ったパッケージを使用してインストールを行なっている場合、Sun Storage Common Array Manager はインストールされますが、実行できません。たとえば、帯域内プロキシエージェントパッケージがアーキテクチャ依存 (Solaris の場合の SPARC および x86) として配布されている場合、SPARC パッケージのインストールは x86 プラットフォーム上では成功しません。ただし、この問題の発生リスクはあまり高くありません。

回避策 - 正しいパッケージをインストールします。手順については、『Sun Storage Common Array Manager ソフトウェアインストールおよび設定マニュアル』を参照してください。

Solaris Target Port Group Support (TPGS) がサポートされていない

バグ 6872689 – Solaris Target Port Group Support (TPGS) は、現時点ではサポートされていないホストタイプです。Solaris で必要なサポートが提供されるまで、このホストタイプは選択しないでください。

Solaris を version 10 以降にアップグレードすると Oracle Java Web Console 接続が無効になることがあります。

アップグレードの実行後に、次の手順に従ってポート **6789** を着信接続用に開放してください。

1. 次のコマンドを実行して、ポート 6789 の現在の状態を確認します。

```
#netstat -an | grep 6789
```

通常、出力は次のようになります: *.6789 *.* 0 0 49152 0 LISTEN

2. 次のコマンドを実行して、ポート 6789 を使用可能にします。

```
# svccfg -s svc:/system/webconsole setprop options/tcp_listen=true
```

```
# smcwebserver restart*
```

UTM LUN が「Solaris Traffic Manager」で制御される - 6000/2500 アレイ

S10U3 以降にアップグレードしたあとに、帯域内管理 UTM LUN が Solaris Traffic Manager (MPxIO) で制御されます。多くの場合、この結果として帯域内管理に失敗することはありませんが、UTM LUN が MPxIO で制御されないようにすることが最良の方法です。

回避策 - format inquire コマンドを使用して 8 文字のベンダー ID (VID) と製品 ID を取得します。次の手順に従います。

1. /kernel/drv/scsi_vhci.conf ファイルを編集します。

次の行のようにします。

```
device-type-scsi-options-list = "SUN Universal Xport",  
"disable-option"; disable-option = 0x7000000
```

2. stmsboot -u コマンドを実行します。

表示される要求に対して次のように応答します。

```
WARNING: This operation will require a reboot.
```

```
Do you want to continue? [y/n] (default: y) y
```

変更はシステムを再起動すると有効になります。

```
Reboot the system now? [y/n] (default: y) y
```

サポートへの連絡

<http://www.sun.com/contact/support.jsp> でサポート担当者にお問い合わせください。